

愛知県農林水産業の  
試験研究基本計画2025  
〔農業部門〕

中間評価について

# 試験研究基本計画2025

期間: 2021年～2025年

## 重点研究目標

ア. 高収益、省力生産を  
可能にするスマート農業の実現

イ. 気候変動等の環境変化に  
対応した持続可能な農業の推進

ウ. 愛知の強みを生かした  
競争力の高い農業の創造

エ. 愛知のブランド力を高める  
多彩な品種の創出による  
需要の拡大

## 研究事項

- (ア) 高度なセンシング等に基づく最適管理技術の開発
- (イ) 作物の能力を最大限に発揮させる環境制御技術の開発
- (ウ) スマート農業技術の体系化と社会実装

- (ア) 地球温暖化等の生産環境に対応する技術の開発
- (イ) 新たな病害虫や多様なリスクに対応する技術の開発
- (ウ) 環境に配慮した持続的農業技術の開発

- (ア) 低コストで労働生産性を高める技術の開発
- (イ) 消費者等の多様なニーズに対応する生産技術の開発
- (ウ) 中山間地域等の活性化や、多様な経営体に対応する生産技術の開発

- (ア) 気候変動等に強く多様なニーズに対応した水稲・小麦品種の開発
- (イ) 多様な消費者ニーズや地域特性に対応した園芸品種の開発と選定
- (ウ) 愛知のブランド力を高める家畜の系統の開発と優良系統の保存

# これまでの経緯と今後の予定

8~9月 部門別推進会議



各部門での評価実施〔8部門〕

10月 4日 農業専門分科会



関係機関からの意見聴取

14名 県庁各課 5名  
県農林水産事務所 8名  
農業大学校1名

11月 21日 農林水産技術会議



本会議への報告

## 次年度以降の研究課題に反映



# 重点研究目標の進捗

# ア 高収益、省力生産を可能にするスマート農業の実現

達成目標数(計画時点:23)

目標を達成し完了	実施中	計画を変更(c~d評価)	研究を中止(c~d評価)	新規研究を開始	達成目標数(中間評価時点)
5	18	0	0	3	26

## (1) 計画期間で得られた主な成果

- ドローンセンシングに基づく小麦の可変施肥技術を実証し、品質安定につながる栽培技術を開発した。
- ドップラーセンサーを活用して、名古屋コーチンの密集につながる行動変化を即時に検出できる技術を開発した。
- 土壌水分等が測定可能な安価な測定機器の実用性を確認するとともに、機器作成マニュアルを策定した。

## (2) 新たな対応が必要となった研究(新規研究課題)

- |    |   |
|----|---|
| 新規 | 小麦等のドローンセンシングを実用化するため、生育診断技術の汎用性を高める技術を開発する。                  |
| 新規 | 簡易な環境モニタリング機器を利用した茶の高品質生産技術を開発し実証を行う。                         |
| 新規 | キャベツ等における収穫作業の省力化のための電動制御による収穫物運搬車を開発するとともに、ほ場内の生育斉一化技術を開発する。 |

# イ 気候変動等の環境変化に対応した持続可能な農業の推進

達成目標数(計画時点:32)

目標を達成し完了	実施中	計画を変更(c~d評価)	研究を中止(c~d評価)	新規研究を開始	達成目標数(中間評価時点)
10	21	0	1	3	35

## (1) 計画期間で得られた主な成果

- エゴマの搾り粕を利用し、高品質な豚肉生産技術を開発した。
- キャベツについて、堆肥と緑肥の併用により土壌炭素貯留量を増加し、安定生産できる技術を開発した。
- 水田における除草剤抵抗性雑草ネズミギの防除技術を確立し、マニュアルを作成した。

## (2) 新たな対応が必要となった研究(中止、新規研究課題)

- 中止** 排水口周りからの畦畔崩壊防止技術については、効果的な既製品が発売されたことから試験を終了する。
- 新規** キャベツ及びトマトについて、高機能バイオ炭を用いた栽培技術を開発する。
- 新規** 環境DNA回収技術SGF法の実用化を進めるとともに、生物検出技術を開発する。
- 新規** イチゴについて企業から排出される炭酸ガスの施用技術を開発する。

# ウ 愛知の強みを生かした競争力の高い農業の創造

達成目標数(計画時点:27)

目標を達成し 完了	実施中	計画を変更 (c~d評価)	研究を中止 (c~d評価)	新規研究を 開始	達成目標数 (中間評価時点)
5	21	1	0	4	31

## (1) 計画期間で得られた主な成果

- ・ コンクリートブロックを利用したイノシシへの効果的な豚熱経口ワクチン摂取技術を開発した。
- ・ ブランド化を進めているナシ「瑞月」の落果抑制技術と果形改善技術を開発した。
- ・ 「ミネアサヒSBL」の食味評価「特A」取得に向けた施肥基準を策定した。
- ・ タマネギの一条植え栽培に適した施肥方法等を明確化し、低コスト機械化体系を確立した。

## (2) 新たな対応が必要となった研究(見直し、新規研究課題)

見直し	ナス「試交17-22」について、産地のニーズに合わせて、促成作型に注力して技術開発を進める。
新規	大豆について、湿害による発芽不良を回避できる高速播種機を開発する。
新規	イチゴ「愛経4号」における裂皮果の発生要因を解明する。
新規	農業残渣由来の新規発熱体を利用した保温システムによる、効率的な育苗技術を開発する。
新規	水分センサーにより得られたデータに基づく鉢物給液システムを開発する。

## エ 愛知のブランド力を高める多彩な品種の創出による需要の拡大

達成目標数(計画時点:33)

目標を達成し 完了	実施中	計画を変更 (c~d評価)	研究を中止 (c~d評価)	新規研究を 開始	達成目標数 (中間評価時点)
5	25	1	2	2	35

### (1) 計画期間で得られた主な成果

- ・ 漬物加工特性、単為結果性及びとげなし性を持つナス「試交17-22」を開発し、品種登録出願した。
- ・ スプレーギクについて、耐暑性を有する夏秋系と低温でも開花が早い秋系を開発し、品種登録出願した。

### (2) 新たな対応が必要となった研究（見直し、中止、新規研究課題）

**見直し** 高品質な中晩生カンキツのオリジナル品種について、品質や収量性、隔年性等を十分に把握するため、調査期間を延長し開発に取り組む。

**中止** 複合病害抵抗性を持つ単為結果性トマトは、現地適応性試験結果から品種登録出願を行わず中止する。

**中止** 土壌病害抵抗性ナス育種素材について、育種素材入手ができないため研究を中止する。

**新規** キク、カーネーションについて、優良品種開発のためのゲノム編集技術を確立する。

**新規** ブタについて、安定性の高い新規卵採取技術を開発し実用化する。